



## オーストラリアン・ラブラドゥードルのグレーディングスキーム

Australian Labradoodle Association 「ALA PUREBRED GRADING SCHEME」

このスキームは、正確に世代をカウントして純血種に至るまでの手順をより促進するために開発されたものである。

### 1. 定義

AL= オーストラリアン・ラブラドゥードル (AL) の純血種

※下記のグレーディングスキームに使用されているような数的でない世代の表記法は、世界中のケンネルクラブにおける正確な世代のカウント方法に基づく。

※現時点でアメリカンケンネルクラブ (AKC) は、このカウント方法によって ALF どちらの交配が 3 世代続くことを求めている。

ALF= ファウンデーション・ドッグ

先祖犬として必要とされる 3 犬種が掛け合わされており、フリースまたはウールの毛質を有する

LO= ラブラドゥードル・オリジン

ラブラドール×プードル、AL 先祖犬の異種交配

ALF0= ゼロ世代の犬／仔犬

先祖犬の掛け合わせは規定を満たしているが、毛質がヘアー、またはヘアーが混ざった毛質（抜け毛が見られるタイプ）であるため、ALF1、2、3 または AL のグレーディング基準を満たしていない

血統書に記載されている現在認められている先祖犬の種類：

1. ラブラドール・レトリバー (L)
2. プードル (P)
3. コッカー・スパニエル (C)  
イングリッシュ・コッカー・スパニエルまたはアメリカン・コッカー・スパニエル
4. 上記の先祖犬のいずれかどうしの掛け合わせ



## 2. 基本的な規則

(1) ALF の世代は、3 種類の先祖犬が掛け合わされた時点から開始される

例：

LO5×ALF1、2、3、4 または AL=ALF1

LO2×ALF1、2、3、4 または AL=ALF1

LO3×コッカー/スプードル=ALF1c (ウールまたはフリースの場合)

LO2p×コッカー/スプードル=ALF0c (ヘアーまたはヘアーが混ざった毛質の場合)

(2) グレードまたは世代のカウントにおいては、父犬と母犬の両者の血統が考慮される

(3) ALF は、同世代または同世代以上の ALF と交配させることによるのみ世代を進めることが可能

例：

ALF1×ALF1、2、3 または AL=ALF2

ALF2×ALF2、3 または AL=ALF3

ALF3×ALF3 または AL=AL (AKC の定義による純血種)

(4) ALF の交配において、3 種類の先祖犬 (LO、ラブラドール、コッカー、プードル) のいずれかが投入された時点で ALF の世代カウントはリセットされ、その子孫は ALF1 へと引き戻される

例：

ALF1、2、3 または AL×プードル=ALF1p

ALF1、2、3 または AL×コッカー/スプードル=ALF1c

ALF1、2、3 または AL×ラブラドール=ALF1L

ALF1、2、3 または AL×LO=ALF1

(5) ヘアーまたはヘアーが混ざった毛質 (抜け毛のあるタイプ) について

- ・ 同一の腹から生まれた仔犬には、同じグレードが与えられる。
- ・ 去勢/避妊された仔犬は、その毛質にかかわらず、一生涯を通して同じグレードである。
- ・ ブリーディング用の仔犬がヘアー (抜け毛のある毛質) である場合、ブリーディング犬として登録の更新を行う際にその世代を ALF0 としなければならない。この犬から生まれ



る全ての子孫は **ALF1** となる。その子孫のうち、ブリーディング用のものがヘアー（抜け毛のある毛質）であった場合、ブリーディング犬として登録の更新を行う際にその世代は **ALF0** に引き戻される。

- 全ての仔犬は、一胎子登録の際に毛質が記載される（ペット用の犬も未記入にしない）。これによりデータベースがより包括的なものとなり、ブリーダーが血統を調べたりする際、十分な説明付きの選択肢を提供する。
- ブリーディング用の犬がヘアーもしくはヘアーを含む毛質であった場合、その犬はブリーディング犬として登録される際、自動的に **ALF0** に引き戻される。

(6) 先祖犬が連続して投入されていなければ、**ALF** のグレードに留まれる

例：

**AFL2**×**LO5**= **AFL1**

生まれる子孫は次世代で先祖犬に先祖返りしない可能性がある

**ALF2**×コッカー／スプードル= **ALF1c**

生まれる子孫は次世代でコッカー／スプードルに先祖返りしない可能性がある

**ALF2**×プードル= **ALF1p**

生まれてくる仔犬は次世代でプードルに先祖返りしない可能性がある

上記の規則は、特定の先祖犬が繰り返し使用されることを防ぐ。特定の犬種の割合が **94% (15/16)** である犬は、グレーディングにおいてその犬種に分類される。

例：

ラブラドル×プードル=**LO1**

**LO1**×プードル=**LO2p**

**LO2p**×プードル=**LO3p**

**LO3p**×プードル=プードル

※生まれてくる仔犬の **94%**がプードルであるため、「**LO**」のグレーディングは失われ、「プードル」と記載される。



### 3. グレーディング

#### (1) LO

LO1、2、3、4...。LO は全ての世代を先に進める。現在、父犬または母犬の血統 5 世代中でプードルの投入回数は 3 回まで認められている。

例：

ラブラドール×プードル=LO1

LO1×プードル=LO2p

LO2p×LO5=LO3

LO は、LO と ALF の交配、または 3 種全ての先祖犬の掛け合わせによってのみ ALF へと前進することができる。

例：

LO5×ALF3=ALF1

LO2×ALF2=ALF1

LO4×コッカー／スプードル=ALF1c

#### (2) ALF0

3 種全ての先祖犬の掛け合わせ、または ALF1、2、3、AL×LO、P、C、L、によって生まれた、ヘアーかヘアーが混ざった（抜け毛のある）毛質の仔犬

例：

LO5×ALF3=ALF0（抜け毛のある毛質の場合）

LO2×ALF2=ALF0（抜け毛のある毛質の場合）

LO4×コッカー／スプードル=ALF0c（抜け毛のある毛質の場合）

ブリーダーは「ALF0／ゼロ」の生体をブリーディング用にすることもできるが、ALF0 から生まれた仔犬は、フリースまたはウールである場合のみ ALF1 として認識される。

例：

ALF0×ALF1、2、3 または AL=ALF1

ALF0×プードル=ALF1p



(3) ALF1

ALF×LO、P、C、L または 3 種全ての先祖犬の掛け合わせによって生まれ、フリースまたはウールの毛質を有する仔犬

例：

ALF1、2、3 または AL×LO (全ての世代) =ALF1

ALF1、2、3 または AL×先祖犬のどれか、または先祖犬の組み合わせ=ALF1

LO4×コッカー／スプードル= ALF1c

(または 3 種のうち 2 種の組み合わせ×残り一種の先祖犬／3 種の組み合わせ=ALF1)

(4) ALF2

フリース／ウールの毛質を有する ALF1×ALF1、2、3 または AL

(5) ALF3

フリース／ウールの毛質を有する ALF2×ALF2、3 または AL

(6) ALF4

フリース／ウールの毛質を有する ALF3×ALF3 または AL

(AKC の規則に基づき、以下の条件に当てはまれば AL となる)

(7) AL／ALF4

AL の純血種

条件

- ・ ALF 同士で 3 世代交配されていること
- ・ 複数犬種 (Multi Breed) が含まれていること
- ・ 犬種標準に記載されているいかなる欠格条項にもあてはまらないこと
- ・ 毛質がフリースもしくはウールであること
- ・ 最新の犬種標準に示される条件を満たし、登録機関によって承認されていること

以上